

薬剤部 DI ニュース

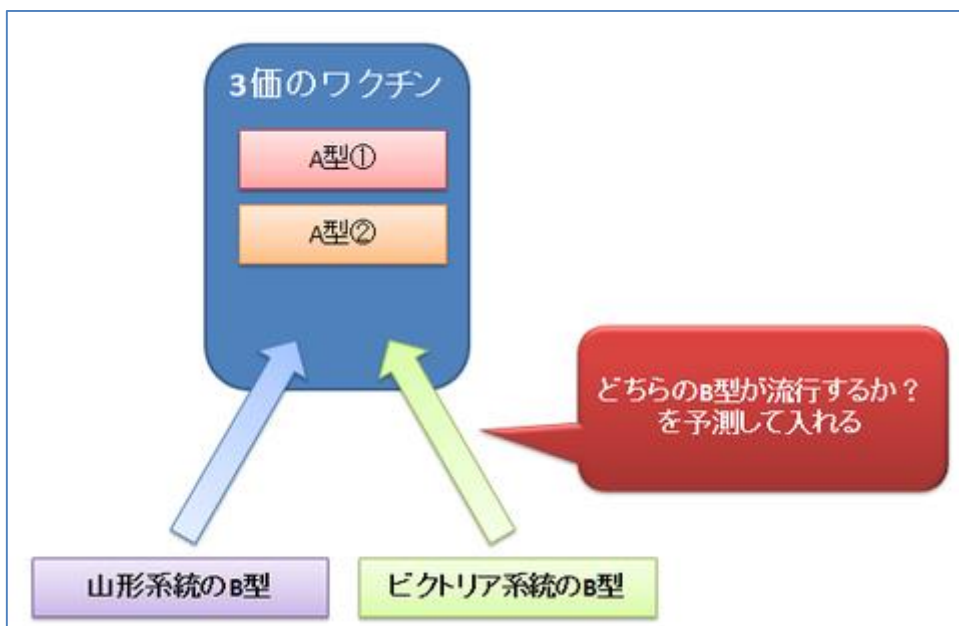
今シーズン（2015-2016）から、「インフルエンザワクチン」が 4 価に

2015～2016 年のシーズンから、日本でも 4 価の「インフルエンザワクチン」が使われることになりました。これによって、流行するインフルエンザのタイプをほぼ網羅することができるようになります。

《つまり、何が変わるのか》

これまで 3 価（A 型 2 株 + B 型 1 株）であったワクチンが、4 価（A 型 2 株 + B 型 2 株）になります。B 型インフルエンザのワクチンを 1 種類追加することになります。

主に流行する B 型インフルエンザは、「山形系統」か「ビクトリア系統」と呼ばれる 2 つのタイプです。これまでは、両方が同時に流行することが少なかったため、シーズン前にどちらが流行するかを予測し、一方だけをワクチンに入れていました。



しかし、今シーズン（2015-2016）からは、両方が入っているワクチンになります。これによって、どちらの B 型インフルエンザが流行しても、もし両方が流行したとしても、十分に予防効果を発揮することができるようになります。

《4 価とはどういうことか》

「そのワクチンを使うことで、何種類のウイルスや細菌に対して免疫を獲得することができるのか」を”価”として表現します。

ウイルスや細菌も、ヒトと同じように様々な異なる遺伝子を持ち、色々な特徴を持って

います。ヒトの免疫は、「指名手配書」を使って犯人を検挙するように、外敵のデータベースを基に働きます。

ワクチン接種は、この外敵のデータベースに、新しいウイルスや細菌の情報を追加することを意味します。

そして、「4 価のワクチン」とは、4 種類の指名手配犯をデータベースに追加できるワクチンということです。

《これまで、日本では 4 価のワクチンを作れなかった》

日本では、「生物学的製剤基準」によって、薬に含まれるタンパク質の上限量が定められています。この制限は、薬に病原性のあるタンパク質が混入すること等を防ぐために必要なものですが、この制限によって、インフルエンザのワクチンを 3 株までしか入れることができませんでした。

そのため、B 型インフルエンザのうち、主に流行する 2 つの株から、「今シーズンは、どちらが流行するのか？」を予測して、どちらか一方だけをワクチンに入れる方法がとられてきました。

これまで、世界保健機構（WHO）も 3 価（A 型 2 株 + B 型 1 株）のインフルエンザワクチンを推奨していたこともあり、正しい予測がされれば問題ありませんでした。しかし、最近では 2 株の B 型インフルエンザが同時流行する傾向が増えてきたため、4 価のインフルエンザワクチンが求められていました。

アメリカでは日本に先立って 2013-2014 のシーズンから 4 価のワクチンを導入し、A 型・B 型インフルエンザを予防する際に有効であることを報告しています。

《薬剤師としてのアドバイス：ワクチンの接種を受けよう》

インフルエンザワクチンの接種には、[発症予防](#)や、万が一発症しても[重症化を防ぐ効果](#)があります。

小さな子どもの場合、ワクチン接種をしておくことで「[インフルエンザ脳症](#)」を防ぐことができるかとされています。

また、「[高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015](#)」においても、ワクチン接種が推奨されています。

更に、近年は抗ウイルス薬に耐性を持ったインフルエンザウイルスが出現しています。2014-2015 のシーズンには、日本で『[タミフル（一般名：オセルタミビル）](#)』や『[ラピアクタ（一般名：ペラミビル）](#)』に耐性を持ったウイルスが検出されています。

こうした状況からも、インフルエンザの予防接種を受けることをお勧めします。

（薬剤部 吉村）